大島みらい新聞 No.14

2014年4月26日発行

ごあいさつ ～大島みらい新聞発行を振り返って～

長峯 純一（気仙沼大島みらいチーム代表）

2012年12月に「大島のみらいを考える会」を始めて、1年間半ほどが経ちました。ほぼ同時期から「大島みらい新聞」を発行し始め、14号まで来ました。実はこの新聞の印刷には、毎回3万円ちょっとの経費がかかっておりますが、2013年度は気仙沼市（地域づくり推進課）より大島地区自治会連絡協議会を通じて助成金396,000円を受けることができ、それで賄うことができましたことを、ここに報告させていただきます。それに先立ち、自治会連絡協議会とは復興まちづくりに向けての事務委託を気仙沼大島みらいチームが受ける形で、契約を結ばせていただきました。

2014年度も引き続き、昨年度と同様の事務委託契約を自治会連絡協議会と結ばせていただき、市助成金への申請をお願いしております。助成金を受ける限りは、新聞の内容もより充実させていきたいと思っております。島民の皆さんも、学生たちが取材に伺いましたら、ぜひご協力・ご支援をよろしくお願い致します。今後とも当新聞をご愛読ください。

背後地の利用を考える - つばきマラソン開催を迎えて -

椿が咲き誇る暖かな陽気の中、先日気仙沼つばきマラソンが開催されました。震災後、一時開催を見送っていましたが、昨年より再開され、今年で再開後２回目を迎えました。一年で島外から大島を訪れる人が最も多いこのイベントに合わせて、我々大島みらいチームでは多くの来島者を対象にヒアリング調査を行いました。ヒアリングでは「大島に来て、思ったこと」をまず質問してみました。美しい自然だけではなく、大島に住む人やフェリー、今はない亀山リフト等の観光・交通資源も、大島を訪れる重要な要素になっていることがわかりました。さらに「大島に来たきっかけ」という質問には、「つばきマラソンへの出場あるいは応援のため」という回答が最も多く聞かれ、「イベント」を通した集客・観光戦略も今後の大島の復興にとって重要な路線のひとつとなるのではないかと思いました。

また、4月18日から19日にかけて、原形復旧の方針となった田中浜・小田の浜を有効利用を考えるために実地調査を行いました。この調査では、浜の景観要素を「土地利用・植生といった面的な要素」「道路や防潮堤などの線的な要素」「住宅から祠や石碑にいたるまでの点的な要素」に分類・記録することで、大島の歴史・自然・風土を感じられる場所が多く残存していることがわかりました。これらの要素を活かした背後地の利用を、次回のみらい会で島民の皆様と一緒にアイデアを出せたらと思います。

（神戸大学修士２年 磯谷二朗）

小田の浜の背後地を考える。現状調査レポート

調査内容

小田の浜周辺地域におけるビューポイントの発見と地形の変化、石碑や祠などの文化的構造物を把握することで、浜の背後地を今後どのように利用し、観光資源としての魅力をどのように伝えられるか、フィールドワークを通して考えました。
浜からの距離による波の音の変化、動物の鳴き声が聞こえたり、水路や井戸、石碑、祠から、様々な生活や構造物の痕跡を発見しました。まだまだ、たくさんの浜の使い方を発見できるかと思いますので、みなさんと一緒に背後地を含めた小田の浜の活用を考えていければと思います。

連載コラム

大島人
OSHIMA-JIN

大島で生きる人のここだけのはなし

第５回
堺 健さん
さかい・たけし
旅館「黒潮」経営

同時インタビュー
山内 繁さん
やまうち・しげる
郷土史研究家

『はやわかり気仙沼・大島漁村史』

三陸の漁村文化を研究している川島秀一教授（現：東北大学）が監修責任となり、分かりやすい歴史と博物誌を合わせたような本を目指し、堺さんや山内さんらが執筆・編集した。

大島の最大の魅力は、離島であること。

―「はやわかり気仙沼・大島漁村誌」を私たちも読ませていただきました。まず、この本の制作を始めた理由を教えてください。

この活動は震災前から始まっていたんです。きっかけは、大島には江戸時代の資料が多く残っていると知ったことでした。とても珍しいことだそうですよ。わかりやすい島の歴史本が作れないかなと。そして震災があってから、この資料の大切さに改めて気づきました。大島が復興していく中で、この資料は何らかの形で復興に役立つのではないかと思ったんです。

―つまり歴史を学ぶことが大島の復興に繋がるのですね。

歴史を学べば大島が今までどういう風に課題を解決したか分かります。その方法はこれから大島が復興していくために生かすことが出来るかもしれません。地域の成り立ちや歴史を知ることは、きっとこれからの大島のまちづくりに役立ちます。大災害があると失うものばかりですが、その反面地域の課題が地域で共有されるきっかけにもなります。今こそ今後どうしていくかということを地域の人達がもっと考えないといけないんです。

―一本の制作を通して改めて気づいた大島の魅力とは何ですか？

大島の最大の魅力は、離島であること。興味深い歴史がたくさんあるのも離島だからこそです。江戸時代から大島は海運業が盛んだったんです。船であちこちからいろんな人々が入ってくる。そのおかげで大島は人と人との交流が多く、そして深かった。ずっと昔から保守的な態度ではなく何でも受け入れてもてなしてきました。これは今の大島にも引き継がれる最大の魅力ですかね。

―今回はこの本の制作に関わった山下さんにも来ていただきました。この本は大島にどんな影響をもたらすと思いますか？

歴史の移り変わりを知っていれば、過去を今に繋げて、今私たちが何をすべきなのかという議論が出来ます。この本が復興の道しるべになってほしいと私たちは思っています。

―この本を読んで島外の私たちも、大島っておもしろい！と改めて思いました。堺さんは、大島のウォーキングマップも作成中だそうです。堺さん、山内さん、貴重なお話をありがとうございました。

取材：山本、磯谷、吉本

大島みらい新聞 No.14 2014 年 4 月 26 日発行
企画・制作・発行　気仙沼大島みらいチーム
編集長　長峯純一（関西学院大学）
協　力　大島地区自治会連絡協議会
写　真　気仙沼みらい計画大島チーム
デザイン　山本十雄馬、磯谷二朗、関目峻行、小林達矢、樋口徹也、小松昌平、立花洋治、中川絵理香、森田久也、吉本響
お問い合わせ　磯谷二朗
Mail:jiro.isogai0246@gmail.com

第14回 大島のみらいを考える会

みらいのカケラをひとつずつ

日時｜2014年5月11日（日）13：30〜16：00
会場｜大島開発総合センター2階
共催｜気仙沼大島みらいチーム，大島地区自治会連絡協議会

背後地利用に向けた浜の調査報告
4月18日〜20日にみらいチーム学生で行った田中浜・小田の浜の調査での発見を島民の皆様にお伝えします。

ウェルカムターミナル基本計画のおさらい
2月に説明されたウェルカムターミナルについてもう一度みなさんでお話しましょう。

仮称・大島元気指標の提案

議題